



「クロク」の「パー」



paperboy&co.♡



Puboo パー



「クロク」の「パー」



paperboy&co.♡



パー
Puloo

ゴローンゴロン ゴローンゴロン

あるひ、ハリネズミはいつものように、
ひとりでクリごっこをしていました。

ゴローンゴロン ゴローンゴロン

そのひはとってもてんきがよかったので、
ハリネズミは、ついつい、まるまったまま、
いねむりをしてしまいました。

そこに、クマのおじさんが通りかかりました。
「おお、こりゃまた大きなクリだなあ」

おじさんは ねむりこけたハリネズミをひろいあげ、
しよっていたカゴにぽーんに入れてしまいました。



おじさんのおうちにかえってくると、
いつものようにこどもたちがあそびにきていました。

「みんな、とってもおおきなクリをみつけたぞ」

ワイイ ワイイ

こどもたちはおじさんのまわりにあつまります。

「じゃあ、さっそくたべようね」



「わーーーー！

たべちゃいやだよ。

ほくクリじゃないよ！」

あわてたハリネズミがとびだしました。



きゅうにうごきだしたハリネズミのトゲに
おどろいたこともたちはおこりだしてしまいました。

「いたーい」「なんだこいつー」「あっちいけよー」

みんなのおおきなこえにハリネズミはもっとトゲをだして、
へやのすみっこでまるまりました。

「だ．．．だから
ボクはひとりでいるのが
すきなんだ．．．」



「なんだ、キミはハリネズミだったのか
ごめんよ。あまりにじょうずにクリのまねっこを
していたからまちがえてしまったよ。
さあ、こっちにおいで。
キミもいっしょに本を読もうじゃないか」

そのやさしいこえに、
ハリネズミはまるまったからだをゆっくり広げながら、
おじさんのおおきなほんだなをながめました。
そしておどろきました。

「わー！こんなにたくさんのほん
ボク、みたことないや
これ、ぜんぶよんでいいの？」

「もちろんだよ。」



ハリネズミは、むちゅうでほんをよみました。

ひとりでほんをよんでいれば、ハリネズミはしあわせでした。

でも、とってもスイートなこいのものがたりや、

ぽかぽかしたかぞくのおはなしをよんだときは、

ちょっとさみしくて、なみだがでてきてしまいました。

「おじさん、

どうしてほんをよむとなみだがでてくるんだろう」

「それはほんにはたくさんのココロがつまっているからだよ」

「ココロ？それはボクにもあるの？」

「キミが、みんなをきずつけたくない、

というきもちはココロだよ。

ココロは目には見えないから、

たくさんの人が本にかくんだよ」

「ボクのココロもほんにかくことできるかな？」



ハリネズミはそのひから、 いっしょうけんめい、
ほんをかきました。
なんだ"か"とってもワクワクしました。

ウサギさんのシッポを、
ふわふわまるくてかわいいなとおもっていること。
くまくんがフンフンうたっているはなうたが
とってもだいすきなこと。
おじさんのふかふかのおなかに
エイッ!とダイビングしてみたいこと。

ほんとうは、 みんなとなかよくあそびたいこと。

ハリネズミのほんのなかには
とってもたくさんのココロがこもっていました。



うちのまえでおじさんがほんをよんでいると、
とってもひさしぶりにハリネズミがあらわれました。
ハリネズミはおじさんがみたことのないほんをもっていました。

「ボクのココロ　わるかな？」

ほんをうけとったおじさんは、
にっこりわらい、ゆっくりとページをめくりました。
ながいとおじさんはそのほんにむちゅうになりました。
ときに、おなかをかかえてわらい、
ときに、しずかに、しずかに、なきました。
そして、ふうっとやさしいためいきをついたあと、

「さあ、みんなによんでおあげ」

とハリネズミにほんをわたしました。



ハリネズミがふりかえると、
もうソワソワしたこともたちが、
ハリネズミのまわりにあつまっていました。





ブクログのpapier

著 papier

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
